

2012年2月20日 09時33分

【久高泰子通信員】インテリア業界の「パリコレ」といわれ、華やかさとトレンド発信力を持つ「メゾン・エ・オブジェ」の国際見本市が1月20～24日、パリ北郊外のビルパント会場で開催された。沖縄からは石垣島在住の金子晴彦さんが「石垣焼」を出品した。2年連続の出展。

金子さんの陶器は石垣島の鉱石などの成分を研究した美しいブルーグリーンの焼き物。長年の試行錯誤の末、海の色ガラスと木葉天目を融合させ、世界初の「碧海木葉天目茶碗」と「燿変珉玻天目」を2010年に相次いで完成させた。

石垣焼を多くの人々に知らせようと欧米諸国でのPR活動にも励む。これまで国際的な晚餐(ばんさん)会などで石垣焼と著名なシェフとの共演を実現。白い器が基本の仏国料理界に新風を吹き込み、石垣焼は認知されるようになった。

金子さんのブースには、デザイナーやジャーナリストが頻繁に足を止めた。日本とも多く取引するデザイン会社「ムレイ」のエリック・ムレイ社長は、茶道などの部屋で使用したいと近々発注する約束をしていた。



石垣焼のブースで、デザイン会社社長のエリック・ムレイさん(左)と談笑する金子晴彦さん＝パリ北郊外のビルパント会場